

(14) 中山峠石塔群

下野街道の中山峠南側中腹付近は、近世の道と近年の道が幾重にも交錯し、その道程は明らかではありません。唯一ここに残っている「右は山、左は若松」と刻まれた道標により、この道が旧街道だったという名残を留めています。

この説明板が立つ一体を地区の人たちは「お庚申様」と呼んでいます。この左奥には笠石・竿石・蓮弁などに三猿を刻み込んだ一際大きな天和三年(一六八三)の塔のほか、延享二年(一七四五)の庚申供養塔が建ち、この外にも文化九年(一八二二)の巳待御祭壇碑や文政三年(一八二〇)の四讀尊碑が並んでいます。

いずれも遠い時代の人々が立てたものであり、往時を偲ばせるものがあります。倉谷宿から大内宿までは二里二町(約九㎞)。正徳二年(一七二二)の資料によると荷一駄の駄賃は四十九文となっています。馬子達は一日に何度となくこの峠を愛馬とともに上り下りし、日銭を稼いでは生計の足しとしたのでしよう。

そして時には、南の山を眺めながらこの地で一息ついたのかもしれません。

